

守門岳山行記録

目的地	守門岳	期 日	平成19年9月30日(日)
山行人	笠原正雄・澄子	特 記	新しく購入した靴の履き慣らし。

地名	(着)～(発)		記 事
与板	5:45 発	曇	長岡で食料調達。
猿倉橋駐車場	6:55～7:10	〃	きれいなトイレ棟。テーブルベンチ。2台あり。歩き出す。
護人清水	7:45	〃	水は涸れていた。この後のブナ林の登りは気分が良い。
谷地平	8:10	〃	山頂へ3.4kmの標識。雑木で平の広がりあまり見えない。
滝見台	8:45～8:55	〃	H1000。中間点の標識。登山口の看板はオオバミ？/この表示はオカバミ？。振り返れば、権現・唐松の先に三山が見えた。道院のゲレンデと大平も見えた。
立ち休み	9:30	〃	長い登り一丁も傾斜が緩んできた。笹団子と水を飲んですぐにスタート。雑木の背丈がだんだん低くなって来る。
大岳の分岐	9:55	〃	8/10の標識。左から上がって来る単独女の姿が見えた。大声で「ヤッホー」。本日最初の人影。この手前に左に降りる道があったが、どこに向かうかは不明である。
青雲岳	10:10	〃	1487m。中年女性2人隊。木道脇に大きなテラスがある。雨が当たって来たようだ。
袴岳	10:25～11:50	雨	単独男が浅草岳を眺めながら陣取っていた。若者2人が大白川に降りて行く。先ほどの女2人とのおち数人が登頂して来た。着いたときは何もせずにそのまま座れると思ったが、次第に本降りとなって、ツェルトをかぶって味噌きゅうりで一杯。ラーメンを煮る。
下山開始	11:50	〃	頂は我々だけになった。やや小降りとなったが、雨具上衣で下山開始。単独男が上がって来て大白川方向へ歩いて行った。
大岳の分岐	12:20	曇	青雲付近で一度雨が止み、下田方向を見る。沢の雲が白く美しい。
アミハリの分岐	12:40	雨	途中滑りやすい露岩も混じる急降下。分岐からおよそ130m降ろされて最低鞍部。右に吉ヶ平の道が降りている。ここから同じ程度登り返す。
大岳	1:00～1:05	〃	登り返しから傾斜が緩み、2ヶ所泥んこを踏む。到着して鐘を叩く。雨足が強くなって来て、展望は全くなし。誰も居ない。
天狗岩屋清水	1:20	〃	清水まで100m又は200mの2つの看板があった。通過。直後コウモリ傘を差した単独上山男とスライド。すぐに不動平。
不動平	1:30	〃	1250m。展望台No.2。更に雨が強くなる。
キビタキ小屋	1:55～2:20	〃	上がり框に腰を下ろし、コーヒーブレイク。
保久礼小屋前	2:40～2:50		泥だらけになった靴とズボンを湧き水で洗う。小降りとなった。
猿倉橋駐車場	3:05	〃	小屋前から保久礼駐車場に来ると、傘の男が車で帰り支度をしていた。通過すると後ろから声を掛けられ、同乗させて貰った。有難い。歩けば40分以上かかったであろう。ラッキーだった。
与板着	5時頃	〃	アブラゲを買い、市内ウオロクで夕食材を調達。店内で河野夫妻とバツタリ出会った。

9年前の5月に2人で登った。とにかく虫が多かった。それ以来、残雪期は別として、敬遠していた。

今回、ヌバックの登山靴を新調した。履き慣らし山行に越後白山とこの山を候補にしていた。朝の天気予報では、白山は風が強い予報だ。多少の雨は覚悟の上、この山にした。残雪期のルートとも比較してみたかった。残雪期は谷地平手前辺りからは尾根道となるので、ルートは同じであるが、そこへ行くまでは、夏道の斜面道を避けて左上の高い所を通っている。

一方、直近に一眼レフカメラを中古安値でGetした。滝見台でそれを取り出したら、充電して置いたはずだと思っていた電池が自然放電していて作動しなかった。チョンボで、1枚も撮ることが出来なかった。

雨模様のお天気だったせいか、静かな山旅であった。